

かさぐるま

ひと、豊かなハーモニー

平成14年7月1日



絵：齋藤 勝利さん

- 特集 契約の時代に向けて
ー平成14年度山形県社会福祉事業団の事業計画ー
- アクティビティプログラム推進委員会スタート
- 障害者就業・生活支援センターが本格的にスタート
- 「サポートセンターよねざわ」オープン
- 話題の人
- 特別寄稿

No. **68**

社会福祉法人
山形県社会福祉事業団

<http://www8.ocn.ne.jp/~yamafuku/>
メール:ysj02@rapid.ocn.ne.jp

特集 **ここがポイント!**
「契約」の時代に向けて
 ひと、豊かなハーモニー
 平成14年度 山形県社会福祉事業団の事業計画

社会福祉基礎構造改革の具体的推進により、今年度からは精神保健福祉事務が平成15年度からは知的障害者福祉に関する事務が市町村に委譲されると同時に、身体・知的障害者福祉領域での措置制度が、利用者と事業者の「契約」による利用制度へ移行することになります。

また、平成15年からの特別養護老人ホームの自主経営を目前に控えており、今年度は制度変革に対する基盤整備とともに、事業団の役割と機能の見直し、そして充実を図ることに主眼を置いて、事業を推進していきます。

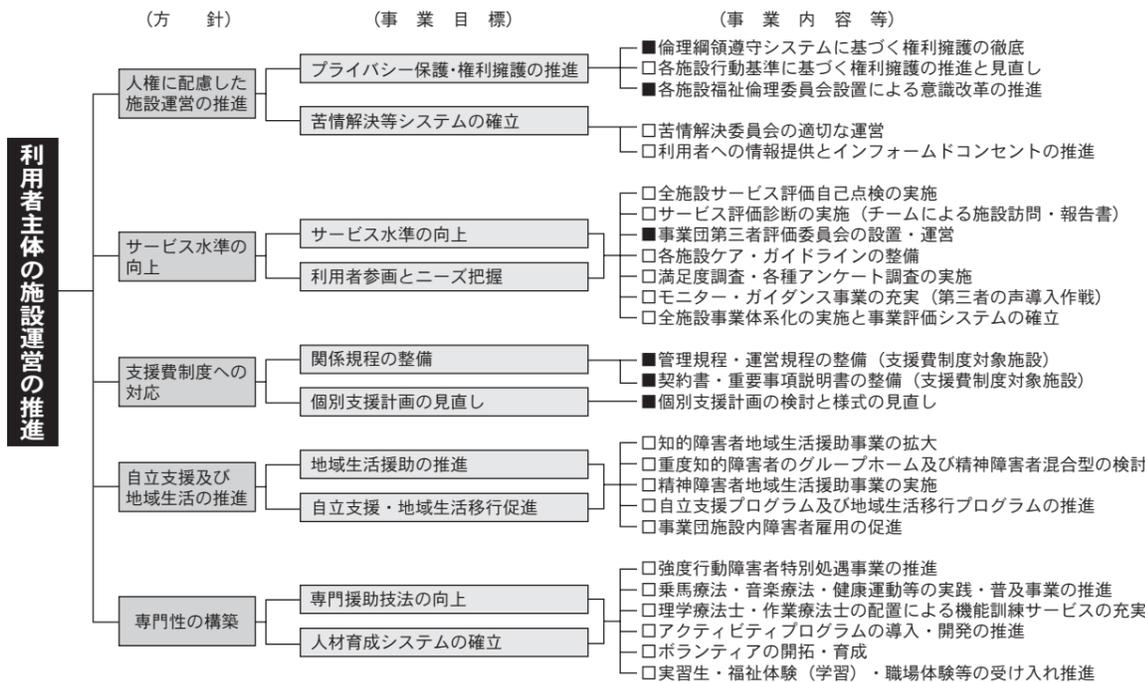
重点事業

- 1 特別養護老人ホームの自主経営への円滑な移行及び改築に向けた基盤整備
- 2 支援費制度移行に向けた体制整備
- 3 政策協議会及び経営改革推進委員会の運営
- 4 事業評価及び人事考課制度の実施
- 5 在宅福祉・地域福祉施策の推進
- 6 利用者の権利擁護と職員の資質の向上

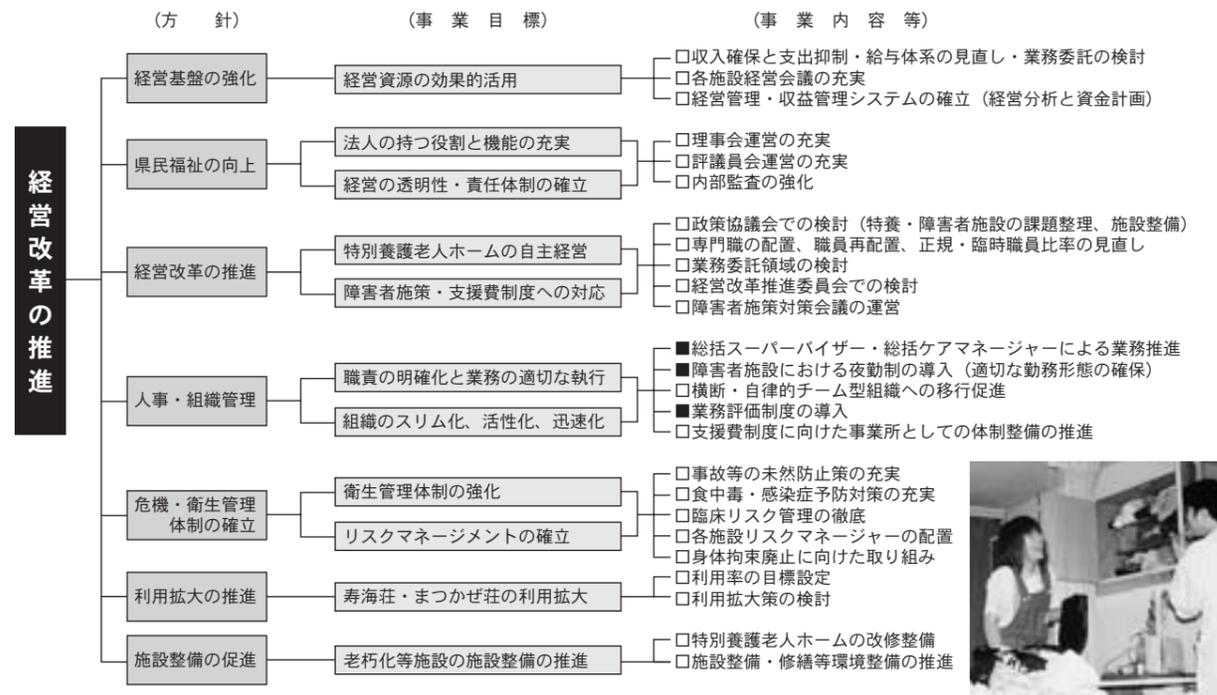
基本方針

- 1 自律的・主体的経営の推進
- 2 利用者の権利擁護と質の高いサービスの推進
- 3 地域における中核的ネットワーク機能の推進と情報の積極的提供
- 4 専門的・先駆的・広域的事業の推進による県民福祉の向上
- 5 職員の資質向上と職場活性化の推進

II 利用者主体の施設運営の推進 ～利用者が主人公の施設づくりをめざして～



I 経営改革の推進 ～法人の自律的・主体的経営をめざして～



ここがポイント!

倫理綱領遵守システムに基づく権利擁護の推進

利用者主体のサービス提供を確立させるためには、職員の福祉倫理に対する意識変革が求められています。その意味で「倫理綱領遵守システム」に基づく権利擁護の推進は、新たな福祉時代に向かって正面から取り組んでいく法人の強い意思を表わすものとなっています。

(主な内容) ・職員倫理綱領及び各施設行動基準遵守の点検と徹底
 ・福祉倫理委員会設置(各施設)による権利擁護意識の高揚

障害者雇用の促進

事業団では、施設内における障害者雇用の促進を図っています。現在の雇用(平成14年4月1日現在)は10施設で15人(業務員・援助員・調理員)ですが、障害を持つ方々の力を発揮できる場を提供し、障害があってもなくても共に生きる社会の実現に寄与したいと考えています。



ここがポイント!

障害者施設における夜勤制の導入

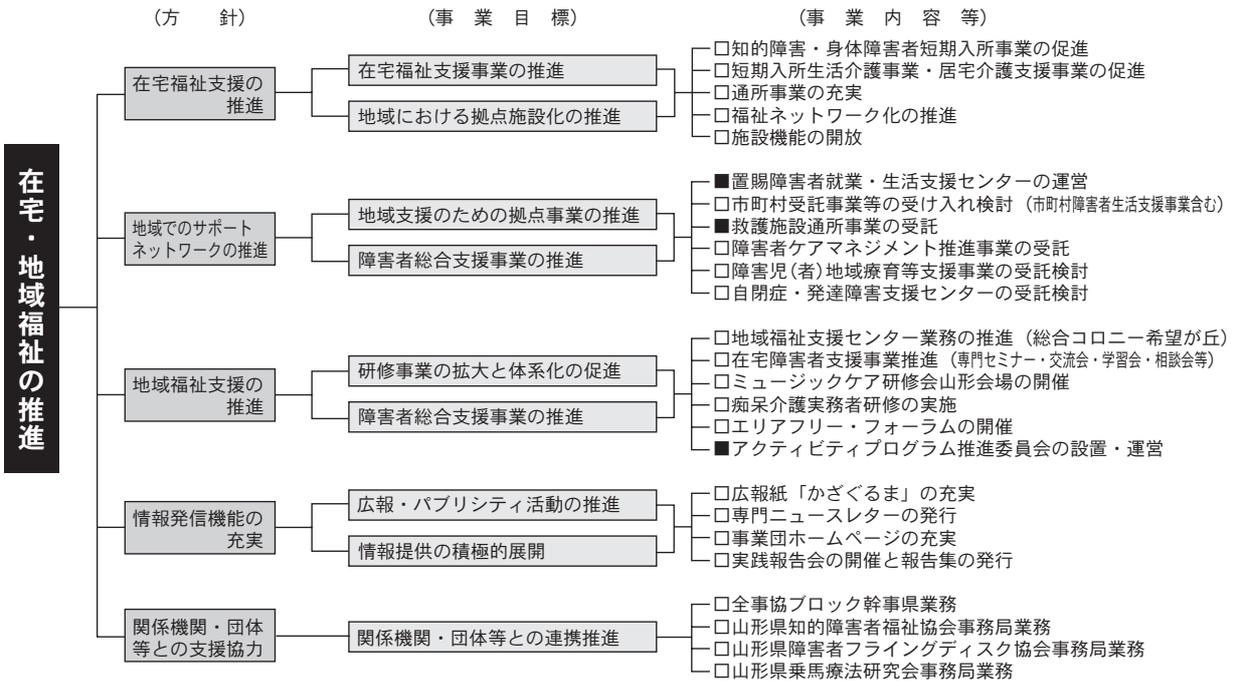
施設サービスを利用する方々が、安心して過ごすことのできる場所として、夜間の支援サービスの強化と安全・安心の確保を目的に今年度から夜勤制度を導入しました。このことにより日中活動の支援と併せて夜間の支援体制が確立しましたが、さらにサービスメニューや提供体制の整理を進め、個別のニーズに対応していきたいと考えています。

導入施設

(知的障害者更生施設) 希望が丘しらすぎ寮・ひめゆり寮・まつのみ寮、慈丘園(重度身体障害者更生支援施設) 梓園



Ⅲ 在宅・地域福祉の推進 ～地域における拠点施設をめざして～



ここがポイント!

アクティビティプログラムの導入・開発の推進 (6Pに掲載)

利用者の方々の豊かな生活の実現を促進するために、組織としてプログラムの導入・開発に積極的に取り組んでいくことが必要です。

そのために、今年度アクティビティプログラム推進委員会を立ち上げ、希望が丘地域福祉支援センターと各施設との連携を図りながら、健康づくりや音楽療法、レクリエーション、そして機能訓練を法人として推進することにしています。

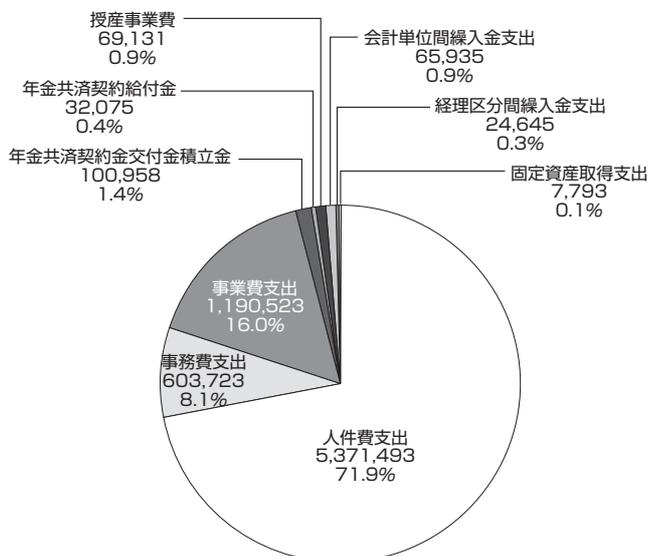
置賜障害者就業・生活支援センターの運営 (8Pに掲載)

就業支援や生活支援を必要とする障害を持つ方々に対し、就業及びそれに伴う生活上の支援を日常的に行います。

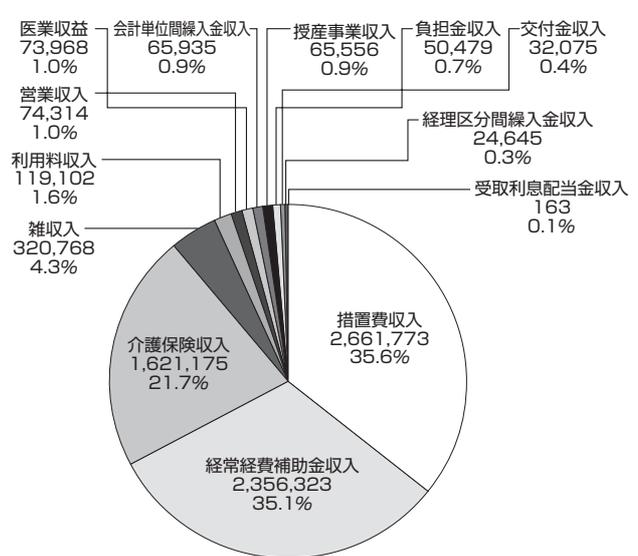


平成14年度当初予算総括

〔支出〕



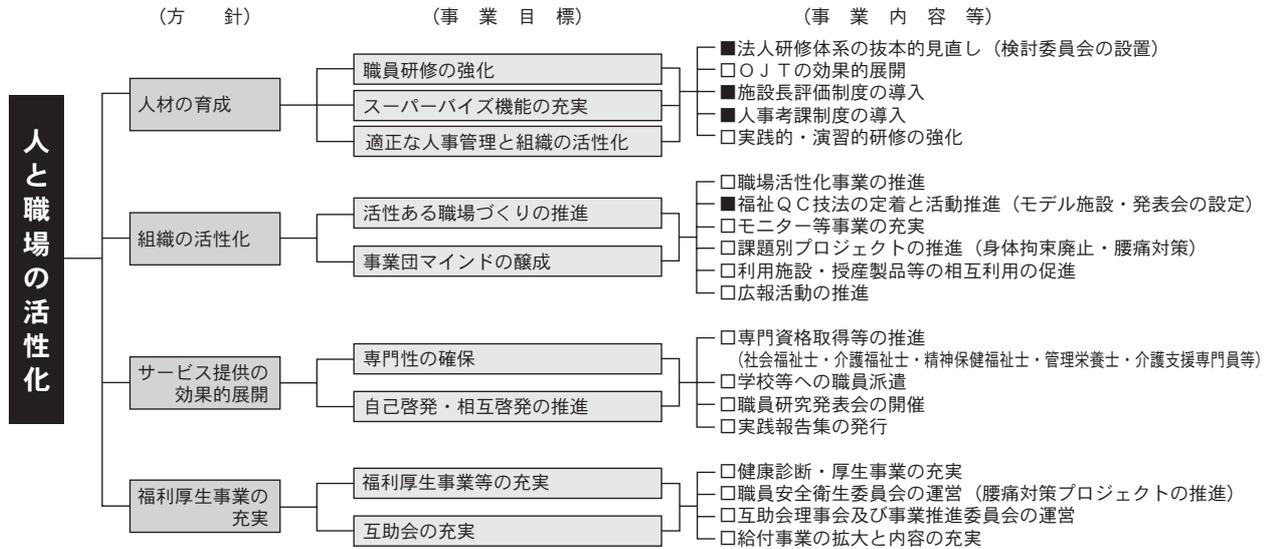
〔収入〕



単位：千円
支出計 7,466,276千円

単位：千円
収入計 7,466,276千円

Ⅳ 人と職場の活性化 ～マンパワーの育成と職場の活性化をめざして～



ここがポイント!

福祉QC技法の定着と活動推進（モデル施設の設定）（7Pに掲載）

福祉QC技法について今年度は、施設が抱える具体的な課題の改善に向けて、モデル施設8施設で活動を展開し、事業団内で発表するとともに福祉QC全国大会にもチャレンジすることにしています。

課題別プロジェクトの推進

今年度は、継続して「身体拘束廃止」に向けた取り組みを行うとともに、新たに職員の「腰痛対策」に向けてチームを発足することにしました。「腰痛」については、8割程度の職員が何らかの腰痛を体験し、3割を超える職員が腰痛を抱えながら業務をしている現状があります。このようなことから、施設における腰痛の実態把握と原因の調査を実施し、腰痛予防対策の具体的な取り組みを推進することによって、施設から腰痛を減らし、施設サービスの充実と職員の健康づくりを推進します。



◆ 理事会報告 ◆

五月二十七日(月)、平成十四年度第一回理事会が開催されました。議案については、承認されていますが、その概要を報告します。なお、理事会に先立ち五月二十二日(水)に平成十四年度第一回評議員会が開催されています。

第一号議案 「平成十三年度決算の認定について」
(主な質疑内容と回答)
(質) 寄付金に対する家族等の意識の変化や特別養護老人ホームやココニ希望が丘における所持金管理の状況は?
(答) 寄付金に対する意識の変化はそれほど顕著ではありません。特養の所持金管理は介護保険制度導入後は家族管理が増加しています。希望が丘については、今まで管理してきた貯蓄会が解散し、現在検討している状況にあります。

(質) ベイオフ制度の中で法人全体の財産管理の対応は?
(答) 今年四月から定期預金のベイオフが解禁され、来年四月から普通預金のベイオフが解禁になります。定期預金は基本財産の一千万円のみであり、普通預金の金額はその月の支払いに充てられ多額の預金は残りません。県の委託料については分割して交付を受けていることから、特別な対応はしていません。

第二号議案 「社会福祉法人山形県社会福祉事業団情報公開規程の一部を改正する規程の設定について」

第三号議案 「社会福祉法人山形県社会福祉事業団個人情報保護規程の設定について」
(質) サービスを提供する施設側では、数多くの個人情報が必要となるが、個人情報の収集に制限があると、適切なサービス提供に制限が出るのでは? また、開示申請ができない人の取り扱いはどう?
(答) 収集を制限している情報は、思想、信条等に関する個人情報であり、サービスを提供する上で必要な性格、趣味、嗜好、物事への意見等は制限に該当しません。自らの開示申請が困難な場合は、法定代理人に限って代理申請を認めています。未成年者の場合は親権者、未成年後見人であり、成年被後見人の場合は成年後見人になります。

第四号議案 「評議員の選任について」
最後に、当法人の就業規則及び育児休業等に関する規程の一部改正について理事長の専決処分により処理することで、承認がなされました。

豊かな生活を求めて

— アクティビティプログラム推進委員会スタート —



誰もが望む、豊かな生活とは「自分自身の生活を自ら決めて行うあたりまえの生活」であることはいままでもありません。衣・食・住が保障され、与えられていればそれで、豊かな生活、満足できる人生を送ることができると言えるでしょうか。豊かな生活、人生は自ら実現可能な人だけに保障されているものではありません。それは高齢になっても、たとえ障害を持ってでも等しく権利として保障されなければならぬものです。自ら実現することが困難であれば、サービスとして機会を提供することが必要です。

ゆったりとその人らしく—音楽療法—

ゆったりとその人らしく—音楽療法—
 りました。しかし「個人の尊厳」を基本に、専門職としての知恵と工夫を駆使して、サービスの開発・提供を行い、利用者の方々の生き生きとした豊かな生活、人生の実現を目指して、個別的継続的なアクティビティプログラムの推進に取り組んでいきたいと思えます。

アクティビティプログラム
 推進委員会事務局
 (地域福祉支援センター)

今、「契約」の時代を迎え、質・量ともに不足している個々のニーズに応じた質の高いサービスを充実することが求められています。
 そのような状況をふまえ、今年度アクティビティプログラム推進委員会が発足しました。五月三十一日に各施設でのアクティビティサービスの整備、充実を図るために、第一回の委員会が開催され、検討が進められています。施設で取り組めない理由として業務が忙しい、人手が足りないという声もありました。



健康づくりは生活の基本
 —ダンベル体操—

平成14年度 職場活性化推進事業

Aコース (パイオニア事業) 地域福祉や専門処遇の向上、先駆的な事業推進を図ることを目的としている事業です。

施設名	事業名	内容
みやま荘 (救護施設)	発信! 「ソーラン節踊り」	踊りを通して健康づくりをすすめるとともに元気・明るさ・躍動感・爽快感をみやま荘から地域へ発信する
置賜障害者就業・生活支援センター	①「第3回地域生活支援セミナー inおきたま」の開催 ②「第2回あっせん型障害者雇用支援センター東北・北海道ブロック連絡会」の開催	利用者主体のサービス提供やライフステージに応じた支援のあり方について考える 就業と生活の一体的な支援のあり方や関係機関とのネットワークづくりを図る
慈丘園 (知的障害者更生施設)	地域生活支援セミナー in庄内	庄内地域での障害者の地域生活支援のあり方考える
西村山精神障害者地域生活支援センター	生活支援セミナー山形2002	精神障害者の地域生活支援のあり方についてセミナーを開催する

Bコース (モニター等事業) 学識経験者や専門職等による情報交換や研修を通して職場活性化を図り、具体的に施設運営に反映させることを目的としている事業です。

あさひ寮 (知的障害者授産施設)	施設サービスモニター事業	地域生活の支援システムとプログラム、地域生活移行プログラムを検証し、より実効性のあるシステムを構築することを目的とする
---------------------	--------------	---

Cコース (サークル等事業) 施設のもつ課題をQC技法等の活用により分析し、業務改善や職員意識の啓発に結び付けることを目的としている事業です。

梓園 (重度身体障害者更生援護施設)	松濤荘 (特別養護老人ホーム)	こだま寮 (知的障害者授産施設)	福寿荘 (特別養護老人ホーム)
-----------------------	--------------------	---------------------	--------------------

車いすは思ったよりつらかった！

— 新規採用職員研修「利用者体験プログラム」の実施 —

あなたはどれだけ、利用者の方の気持ちに近づけますか？

今年度新規採用職員研修プログラムの一環として、重度身体障害者更生援護施設「梓園」と特別養護老人ホーム「寿泉荘」の協力を得て「利用者体験」を実施しました。特にこの内容は、「利用者の立場」を、講義や理論で学ぶのではなく、実際に模擬体験することで、利用者の方を理解し、援助者として基本的な姿勢を学ぶことを目的として実施しました。新規採用の方は栄養士・看護師・理学療法士・援助員と職種も多様でしたが、共通となる利用者の方の状況について、体験を通し様々なことを感じ、理解することができたようです。初めは「嫌だなあ」と



特殊浴槽での体験

いう気持ちがあったという率直な意見、オムツ体験やシルバーカー体験、食事介助を受ける体験、特殊浴槽での入浴体験、車椅子での外出体験、利用者の方との交流などから、生活の不便さや不安な気持ち、援助者に対する遠慮などハード・ソフト両面から感想が出され、理解を促すことができました。また「施設を利用したいと思えますか？」という視点でモニターとしての役割も担っていただきました。

今後、法人研修の見直しも進められる中で、講義や理論的な研修だけではなく、演習、実技、模擬体験などを取り入れながら、専門職としての人材育成を図って行きたいと思えます。

地域福祉支援センター 研修担当



車椅子で外出体験

福祉QC活動が

いよいよはじまりました。

福祉QC技法については、これまで研修会やプロジェクトチームによる活動などの取り組みを行ってききましたが、今年度は各施設での普及・展開を図ることになり、八力所の施設で取り組むことになりました。十月には事業団内で発表会を予定しています。

実施施設	サークル名	テーマ
松濤荘（特別養護老人ホーム）	緑の松風	おいしい顔がみたい
福寿荘（特別養護老人ホーム）	ほっと	ふれあいを多く持ちましょう
吹浦荘（知的障害者更生施設）	ちょうかいあざみ	連絡体制の充実を目指して
泉 荘（救護施設）	スプリング・ボード	トイレをきれいにしましょう
梓 園（重度身体障害者更生援護施設）	ひよっこりひょうたん島	楽しく変えよう！生活習慣
希望が丘こだま寮 （知的障害者授産施設）	GO!GO!こだま号	情報もれをなくそう
希望が丘しらさぎ寮 （知的障害者更生施設）	わいわいクラブ	さわやかパンツになろう！
ワークショップ明星園 （身体障害者通所授産施設）	プリンター	印刷科の受注を増やすには

Topics — 話題 —

知的障害者授産施設「希望が丘 あさひ寮」

施設を出て、地域の中で暮らしたい — 自活訓練事業 —

私達は、利用者の方が地域の中で暮らすことを目的に取り組んだ「まちくら（まちで暮らそう）」「ちかくら（家の近くで暮らそう）」プランを通し、多くの事を学びました。この地域生活体験は、自立の意欲をもたらすとともに、周りの利用者の方々に及ぼす影響も大きいものでした。

例えば、あいさつ、食事、買い物、交通機関の利用等、施設の中では経験する事のない現実にとまどいながらもやがてあたり前の事として受けとめられるようになってきました。この事は家族との相互理解を深めるとともに、何よりご本人の大きな自信となったようです。体験した方の言葉は、地域生活の魅力を高める力として波及していきま

した。利用者の方々の視線は確実に地域へと向かっています。

私達は利用者の方の自立支援及び地域生活移行への推進を図るため、継続的、計画的な支援プログラムの確立をめざしていきます。

(長谷川昌宏)



障害者就業・生活支援センターが 本格的にスタートしました

平成11年度に県の指定を受けた「置賜障害者雇用支援センター」は、「障害者就業・生活支援の拠点づくり試行的事業」において、障害者に対する就業面と生活面の一体的支援を実施してきました。

平成13年度には「知的障害者生活支援事業」及び「知的障害者ケアマネジメント推進事業」の受託に伴い、長井市内に「サポートセンターおきたま」を開設、関係機関との連携のもと、社会資源の開拓、開発にも努めてきました。

そして、平成14年度には「障害者の雇用の促進等に関する法律」の一部改正により「障害者就業・生活支援事業」として本格実施されることに伴い、事業所名も『置賜障害者就業・生活支援センター』と改め、従来より実施している支援事業をさらに推進するとともに、置賜圏域における雇用・保健福祉・教育等のネットワークの形成に努めたいと思います。

(菅 洋一)



就業・生活総合支援連絡協議会

特別養護老人ホーム

福寿荘

県高等学校インターンシップ型 雇用事業の受け入れ

この事業は、昨今の経済状況の冷え込みにより、今春高等学校を卒業したものの就労先が見つからない方に対して県内の民間団体等及び県において実際の勤務を通し就労研修を行い社会性、協調性及び自ら積極的に就職活動を行う能力を身につけることを目的としています。期間は平成十四年四月二十二日から平成十四年十二月二十七日までです。

福寿荘では、人材育成は施設の大きな目標であり事業の趣旨に応じ女性二人の方を受け入れました。二人とも介護について興味を持っていて在学中にヘルパー二級の資格を取得し将来の職業選択の一つとして考えていたようです。

利用者の方に接する心構えや言葉遣い、施設介護について基本的な学習をしてもらい簡単な仕事から始め、利用者の方と接しています。若さと明るさは宝のごとくひ孫のようにかわいがられ意欲的に働いています。

これから十二月まで、コミュニケーション技術、介護技術等を学び将来の目標達成のため努力していただきたいと願っています。

(伊藤 斉)



『サポートセンターよねざわ』が五月三十一日に米沢市内のショッピングビルポポロ一階にオープンしました。

このセンターは①長井市にある「置賜障害者就業・生活支援センター」の就業・生活支援を行う分室的な場②川

「サポートセンターよねざわ」オープン

西町にある「希望が丘地域福祉支援センター」の在宅障害者を持つ方への支援と療法や余暇支援のノウハウを広く地域展開する場③米沢市にある「梓園」の利用者の方の地域活動の拠点という三つの機能を持つことになります。

事業団のスケールメリットを活かし、それぞれの事業所が独立して機能を発揮するだけでなく、連携を深め互いに協力しあつて利用者の方々のニーズに広く応えていきたいと思えます。

皆さんが気軽に立ち寄れる場、そして新しい出会いが生まれる場になるようにサポートしていきたいと思えます。

(本間 仁子)



千九九二一〇〇四五
米沢市中央一丁目九番二十五号
ショッピングビルポポロ館1F
TEL・FAX
〇二三八一二四一四三三五
センター開館時間
午前十時～午後四時三十分
(毎週水曜日休館)



すすむオープンフロア化

— 職種間の連携をとりやすく —



従来は、業務室と職員室をオープンフロアにし、十四年度から新たにスタッフルームとして生まれ変わりました。また、廊下に面した部分は、できるだけカウンターにし、利用者や家族の方に気軽に入っていただけるよう、テーブルやレイアウトにも工夫しました。今まで以上に、より良いサービス提供を行えるものと思われまます。今後は、業務の面での融合について検討していきます。

(坂野 晴美)



昨年度末梓園では、事務室と職員室を改修し、事務室を職員室として一体化し、職員室をコール室と作業室にしました。限られたスペースの有効活用と共に、今までそれぞれの職種で分かれていたスタッフの朝会や会議に可能な限り出席することにより、情報を共有化し、共通の理解を得る良い機会となりました。それぞれの分野から知識や技術を出して学び合い、共通の目標に向かって進めるように連携に努めています。

(遠藤 紀子)

大寿荘

特別養護老人ホーム

梓園

重度身体障害者更生援護施設

夏来(なつき)もボランティア

希望が丘の乗馬療法で活躍の「夏来(なつき)」4歳・雌(岐阜生まれ)がこの度、飯豊・川西を中心に撮影が進められている映画「蕨野行」に出演依頼があり、撮影が行われました。

映画「蕨野行」は江戸中期の時代を背景に、今年の1月から山形を舞台にロケが行われています。

上映を乞うご期待。



健康ひとくち



普段から運動をしている人が運動をすると睡眠は促進されます。していない人が急激な強い運動をすると自律神経系の興奮で睡眠に害をおよぼすことが多いのです。適度な運動が精神的

快適な睡眠のための ワンポイントアドバイス

運動編

人間は、生命維持のためには「食べること」そして、「眠ること」が最も基本的な行動です。十分な睡眠を得ることが心身の健康を保つうえで極めて重要です。

地域福祉支援センター

色摩 幸子

(健康運動指導士)

参考文献「すやすやねむる」



緊張をほぐし昼夜のメリハリをつけて夜間の睡眠を促進します。運動の時間帯は、朝早ければ効果が薄く、就寝前では刺激になり眠れなくなります。運動で睡眠を促進させるなら遅い午後から就寝時間一時間前位までの時間帯に三十分程度軽く汗ばむ全身運動・ウォーキングや軽いダンベル体操などが適当と言われています。適度な運動で心地良い睡眠をとりましょう。

作家紹介 (表紙の作品)

— 齋藤勝利さん — (最上町出身)



齋藤さんは希望が丘しらすぎ寮で生活をしています。

絵に興味を持ち始めたのは幼少の頃、はじめは暦の曜日に合わせて絵を描いていました。ブランコが取り付けられたり、鶏を飼ったりすると、その景色を絵にしていたということです。

現在は、視覚、聴覚、言語に障害をもっており、制作活動は行っていませんが、一枚の紙に、目で観察し、耳で聞いて、心で感じ取ったものを力強く表現し、齋藤さんが様々な出会いを通して得た喜び、嬉しさ、哀しみを私たちの心に感じさせてくれます。

(金田 裕樹)

9月20日(金)～22日(日)

(文翔館・山形)

11月8日(金)～11日(月)

(風雅の国・山寺)

で個展を開催します。



緑の丘の作家たち展にて

情報板

セミナー等の開催 (7月現在)

事業名	開催期日	場所	主催・問い合わせ先
音楽療法セミナー	7月23日(火)	ウェルサンピア山形 (山形市)	希望が丘地域福祉支援センター TEL 0238-42-5158
健康運動セミナー	9月26日(木)	体育文化センター (上山市)	
第4回エリア・フリー・フォーラム	12月7日(土)	ウェルサンピア山形 (山形市)	
第3回地域生活支援セミナー in おきたま	9月14日(土)	タスパークホテル (長井市)	置賜障害者就業・生活支援センター (サポートセンターおきたま) TEL 0238-88-5357
第4回梓園福祉セミナー	9月25日(水)	アクティ米沢 (米沢市)	梓園 (重度身体障害者更生援護施設) TEL 0238-22-0398
第2回自閉症療育セミナー「すずらん塾」	10月10日(木) 11日(金)	総合福祉センター (山形市)	希望が丘しらすぎ寮 (知的障害者更生施設) TEL 0238-46-3101
第1回地域生活支援セミナー in 庄内	10月13日(日)	東北公益文科大学 (酒田市)	慈丘園 (知的障害者更生施設) TEL 0235-75-2862

ちよつと拝見.....

業務における情報伝達ルール(文書編)

—みやま荘の場合—

迅速かつ効率的な施設運営の実現には、速やかに情報を伝達することは重要になってきますが、なかなか徹底されないのが現実です。今回「施設における情報の共有化に関する指針」に基づき、各事業所から出された情報伝達方法の中からみやま荘での取り組みをご紹介します。

◎基本姿勢

- (一) 情報は積極的に取りに行く
- (二) 情報は積極的に伝える
- (三) 情報は共有化する
- (四) 情報は管理する

◎具体的方法(行動規準としてルール化しています)

- ・勤務終了時に、回覧文書を一カ所にまとめておく(机の上に放置しない)
- ・重要、緊急回覧文書はグループ毎にコピーを配布し、管理する
- ・回覧文書には見た日付を記入する
- ・(回覧の迅速化)
- ・回覧期間は二週間以内とする
- ・係は文書回覧に対して、最後まで責任を持つ
- ・回覧後は綴りとしていつでも見られるようにする(保管場所の整備)
- ・欠席者への対応はグループのスーパーバイザー、サブが担当する

あなたの施設では、いかがですか？

今回から、各施設にご協力をいただいている方々をご紹介します

桜井清さん(鶴岡市・「桜井歯科医院」院長)

(慈丘園から紹介)

慈丘園と鶴峰園の「オンブズマン」としてお世話になっている桜井清さんは、鶴岡市大山に大正五年開院した桜井歯科医院の二代目院長としてご活躍中です。日中は診察室に立ち、余暇は文化・芸術活動を行っております。三〜五月は大山の犬祭りの「からくり山車」の製作、九〜十一月は昭和二十三年から加わっている「劇団麦の会」の公演に向けた演劇活動、他の月は、各展覧会にも出展される庄内地域中心の写生とパワフルにお過ごしです。



先生の優しい眼差しと同じように全てを癒してくれていました。これからも利用者の意見等を受けとめていただきたいと思います。

松橋みち子さん(長井市・「フラワーほっと」施設長)

——泉荘ボランティア——

私にとって「フラワーほっと」は、開所当時より指導員として仲間に加えてもらうとともに、私自身の心の「ほっと」する場です。平成十一年にはボランティアの会「グループ花暖」ができ、泉荘さんでのボランティアにも参加するようになりました。楽しさと難しさが交錯するなか、今年四月施設長を拝命し、皆さんに支えられている毎日です。

(泉荘から紹介)

松橋さんは、今年の四月から、平成七年に開所した精神障害者小規模作業所「フラワーほっと」の新施設長に就任されました。「フラワーほっと」は、フラワー長井線長井駅の北側旧JR官舎を借りて、こころの病を持つ方が地域で暮らすための生活支援を行っています。また、平成十一年には、精神保健ボランティア講座終了生の仲間とボランティアグループ「花暖」を結成、「フラワーほっと」を活動の拠点としてきました。松橋さんの奥深く新鮮な感覚は施設職員には驚異的です。正に地域福祉の実践者といえるでしょう。



話題の人
Face

特別寄稿



育ち合う雇用支援の仲間づくりへ
山形障害者職業センター
主任障害者職業カウンセラー 青柳 智夫

主任障害者職業カウンセラー 青柳 智夫

経済状況が厳しい中、当センター利用者の方々の就職先は、スーパーマーケットや飲食店、特殊技術と関東関西への販路を持ったものづくりの会社、農業関係や福祉施設へと移行してきました。事業主の皆様からは「自分で考えること」が強く要求されています。実態に対応し、当センターの業務は、毎年度、大きく形を変えています。

平成十一年度には、地域に根ざしたきめ細かい支援を目的としてオープンした置賜障害者雇用支援センター（現、置賜障害者就業・生活支援センター）との連携業務に併せ、職場不応を起こしている障害者の状態改善に向け計画的な訪問による人的支援等を展開する事業主支援業務を開始しました。

平成十二年度には県内四ブロックで各一回のミニフォーラムを、平成十三年度にはパソコンスクール等の協力による県内四カ所でのOA講習を開始しブロック毎のネットワーク形成やサービスの地域格差解消に努めています。

平成十四年度からは職業準備訓練室（山形ワークトレーニング社）の改築を契機に、喫茶サービス、清掃、ピッキング等の場面設定による準備訓練の指導内容の充実、就職から職場適応まで

職業生活全てを支えるジョブコーチ支援事業の開始が加わりました。

ジョブコーチ支援のコンセプトは、障害者支援、事業主支援、家族支援の三本柱からなっています。本人の能力向上のみならず、共に支援者と成りうる方をもバランス良く支えるという方向性を取ろうとしています。

一分一秒を争うようになった実務に耐え得る知識と能力を磨き続けるために、雇用支援を支える仲間達と共に、学び合い育ち合うことが支援者に求められていることだろうと思います。



「職業リハビリテーション推進ミニフォーラム」新産会場で

◆お酒は好きですか？(回答数63名)

好	き	46人
嫌	い	17人

◆寮でも飲みたいと思いますか？

飲	みたい	40人
寮	では飲まなくていい	6人

■アンケート結果より「お酒が好き、寮内でも飲みたい」という方が多いことがわかりました。今後個々のニーズや状況を把握し、飲酒の機会について検討していきたいと考えております。

◆データ集(その5)
知的障害者更生施設「希望が丘しらすき寮」(定員100名)の利用者の方にお聞きしました。

情報板

さわやかな風を感じながら
ディスクゴルフを楽しみませんか

第2回山形県障害者ディスクゴルフ大会

期 日/平成14年9月29日(日)
場 所/希望が丘ディスクゴルフコース (バリアフリー)

問 合 せ 先
県障害者フライングディスク協会事務局
☎023-623-9127



★レキミクス
アクティビティ・サービス (Activity Service) No.2

生活の中から自然に発生したレクリエーションの「回復」や「遊」の概念は、まず教育と結び付き認知されてきました。一六五〇年代には、ボヘミアの哲学者コメニウスの近代的教育論に取り入れられ、一八四〇年には、ドイツの教育者フレベルの「幼稚園」となって具体化してきます。福祉分野では、一八八〇年代のイギリスにおいてY.M.C.A.やセツルメントに取り入れられます。同時期のアメリカではボストンに野外遊戯センターが創設され、社会運動として盛り上がりを見せています。

一方、我が国では、一九二二年の東京YMCA少年部の活動が始まりとされています。一九四八年には日本レクリエーション協会が設立されましたが、福祉分野への関わりは遅れ一九七〇年代に入ってからようやく始まったと言われています。医療との関連では、一九三四年にニューヨーク市ユダヤ人保護協会で情緒障害者のための治療の中で使われたし、一九五五年より傷病兵病院で「レジャー・カウンセリング」が始められました。こうした動向を踏まえ、一九六一年全米医師会「レクリエーションサービスは、①より積極的に健康に貢献する②病気の治療に役立つ③身体的、感情的、社会的、知的な可能性を発達させるのに役立つ」という声明を発表するに至りました。これが契機となって、一九六五年には、全米セラピューティック・レクリエーション学会が設立されております。以上、ざっとアクティビティの基礎にある「レクリエーション」の語源や歴史にふれてみました。

さて、私たちの現場ではどのようにアクティビティのプログラムを組み立てていけばよいのでしょうか。その考え方として「①遊びが基盤②余暇時間だけでなく生活全体の中に③自ら参加する④肯定的感情をもつ⑤健康と幸福な人生の実現に役立つ」等が挙げられます。プログラムの作成は、表1にあるような八つの要素を参考にしながら、日課を「より楽しく」「よりいきいき」という視点から見直すことが重要になります。日常生活のひとこまの茶飲みや雑談でも、発想を変えてみればアクティビティなのです。

表-1

①自分の感情や気持ちを表すもの、創造的なもの	音楽、詩吟、演劇、俳句、短歌、生花、絵画、手芸、折り紙、書道、剣道など
②身体を動かすもの	体操、踊り、輪投げ、バレーボール、ゲートボール、ガーデニングなど
③教育的なもの	講演会、語学、パソコン、郷土研究、天体観測など
④施設から出かけるもの	買い物、観劇、旅行、釣り、キャンプ、野球、観戦、散歩など
⑤自分の意見や考えを反映させるもの	自治会、意見箱など
⑥他の人たちとの関わりがもてるもの	誕生会、おしゃべり、ゲーム、地域の人たちとの交流、コーヒータイムなど
⑦宗教的なもの	礼拝、法話、聖書研究、法要など
⑧その他	ボランティア(古切手集めなど) など